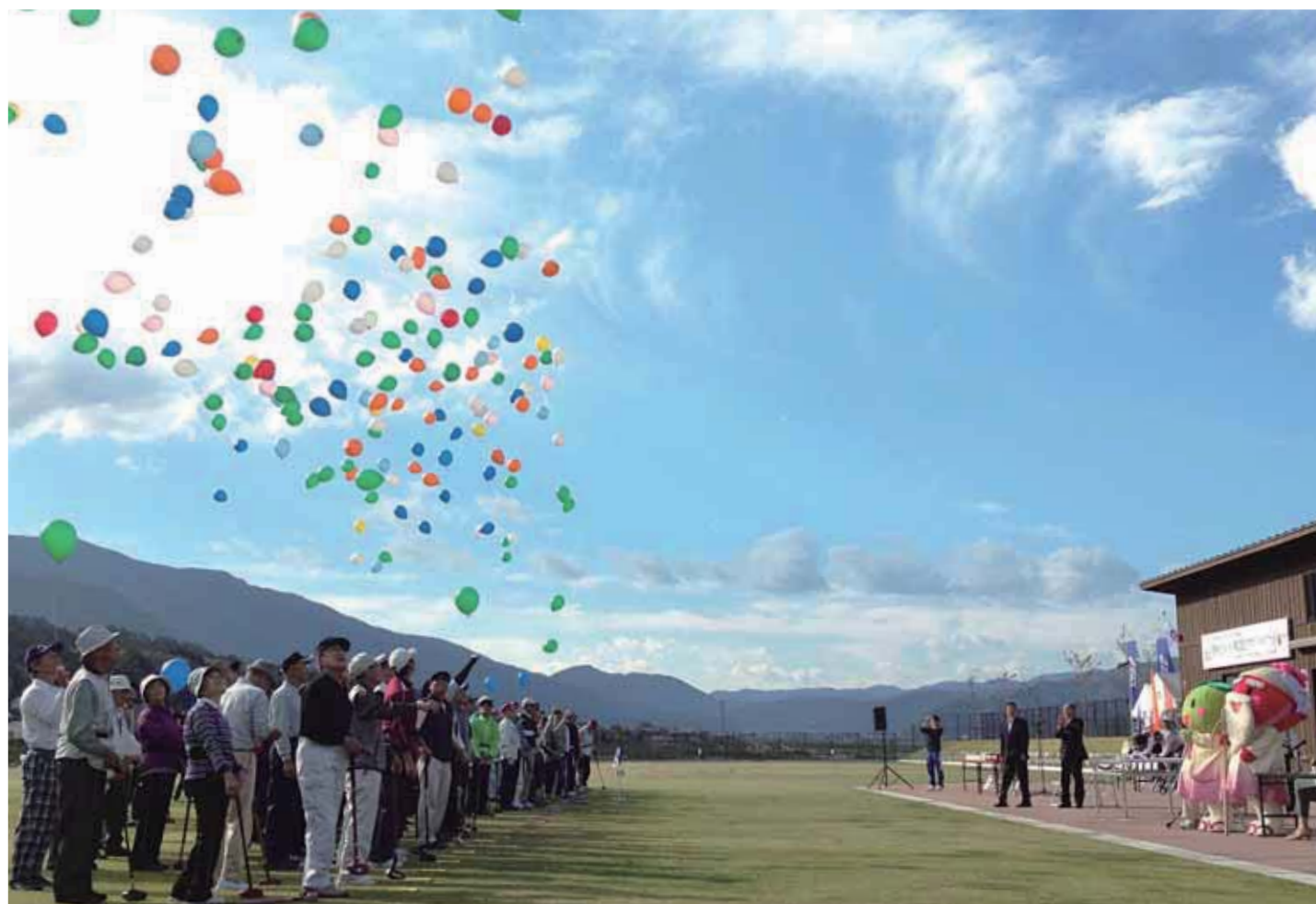




広報 わかさ

No.116 2014. 12





Congratulations on the 25th!!

Hello Australia!

Hello Wakasa!

若狭町国際交流協会では毎年、町内の中高生を対象とした
オーストラリアへの海外派遣事業を実施しています。
派遣研修先として訪れているオーストラリアで
研修の窓口となって生徒たちのお世話をさせていただいている
アマンダ・アイギュンさんファミリーをはじめハイスクールの生徒など 15 人と
交流 25 周年を記念した交流会を開催しました！

訪問団の主なスケジュール

- 10/10 若狭町に到着：和伊和伊亭で夕食後、ホストファミリーと対面
- 10/11 ホストファミリーと過ごす☆
- 10/12 記念式典・ウェルカムパーティー：歴史文化館にて式典、ダンスや餅つきなど！
- 10/13 須恵野焼き体験：須恵野創作館にて陶芸体験、かみなか農楽舎でランチ
- 10/14 学校訪問：上中中、三方中に分かれて、給食を食べたり部活動を見学したり♪
- 10/15 若狭町を出発：涙のお別れ…





Welcome Party!!



記念式典で森下町長は、「25 年前、オーストラリアを視察した時は、まったく未知の国でした。そこで出会ったのがアマンダさんです。彼女は日本の若い人たちの受け入れをしたいと考えておられました。また、日本にも留学のご経験があり、そこで気持ちの噛み合いました。そんなご縁をいただいて、この国際交流が実現しました。それから色々なことがありましたが、ここまで来られました」と、これまでの経緯や、アイギンさん夫妻と国際交流協会関係者の努力に感謝を述べました。

アマンダ・アイギンさんは、「25 年前はまだ独身で色々なことをしたいと思っていた頃。若狭町(旧上中町)から若者たちがやってきて、自分以上の色々な志を持って様々なアイデアを与えてくださいました」と当時を振り返り、「結婚し、5 人の子どもにも恵まれ、もうすぐ 50 歳を迎えますが、それでもまだまだ色々なアイデアが浮かんできます。若狭町国際交流協会ともっとシェアしながら、さらにいい

交流にしていきたいと思っています」と、今後の活動についての意欲を話されました。

最後に「若狭町とわたしたちの町には共通点があります。“たいへん自然豊かな田舎町である”、“お互いの国について学ぼうという姿勢が強い”、“素敵な心を持った方々が大勢いる”これらは、長く交流が続いている理由だと思います。わたしたちは 25 年間で 400 人以上の研修生を受け入れてきました。一人一人が自分の子どものように、家族として接してきました。これからもたくさんの方々にオーストラリアに来ていただきたいと思っています」と呼びかけました。

アマンダさんのご主人 デニス・アイギンさんは「オーストラリアでは、自宅から 100km 離れた町でも若狭町という言葉が浸透しています。わたしも驚きでした!」と、若狭町との交流の深さに感謝を述べられました。





Various Activity!!



須恵野焼き陶芸体験

みんなとても器用でクリエイティブ。ヘイデン・シアラーさん(16)は、「陶芸大好き。とても楽しかったです。カップを作ったのですが、日本茶やハーブティーを入れて飲もうと思います。カップにはひらがなで名前を入れてみました!」と満足な出来だったようです。また、デニスさんは、和の形をしたティーポットを完成させました。「お茶がむらなく混ざるように、中に小さなボールを入れたんですよ」と話していました。アイデアですね!

学校訪問

まずは、上中中学校の様子から。朝、元気に登校した研修生たち。最初はやはり、中学校の生徒たちも研修生もお互いに緊張気味…。研修生はひとりひとり、日本語で一生懸命自己紹介を行いました。

給食の前、今度はグループ内でお互いに自己紹介。緊張しながらも、片言でも通じるとうれしい!研修生たちの苦手な給食メニューは、みんなで協力して

食べました!そうこうしているうちにやっとみんなの緊張もほぐれ、打ち解けてきた様子。

休み時間、男子はバスケットをするために体育館へGo!スポーツのルールは世界共通、そこに言葉の壁はありません。ハイタッチしたり、かけ声をかけあったり、とってもいい雰囲気です。そしてオーストラリアっ子は上手い!

女子はというと、廊下でおしゃべりしたりハグし合ったり。女子はスキンシップでコミュニケーションするのでですね。

つづいて三方中学校では、ジェスチャーゲームをしたり、中学生による英語でのスピーチを研修生がヒアリングしたりと盛りだくさんのメニューで交流しました。

研修生は、書道の授業で自分の名前を漢字で書くことにチャレンジしました。筆が柔らかく、扱うのに四苦八苦していたようですが、力強い書が完成しました。放課後は剣道部を見学しました。研修生たちは、一緒に素振りをしたり、胴着に興味を持ったり、日本の文化に触れながら生徒たちとの交流を楽しんでいました。



With Host Family!!



クローイ・パールさん (16) のホストファミリー (神谷)

田中浩子さん、詩乃さん (中3)、星風くん (小4)

浩子さん「女の子なので、色々気を配ってみましたよ (笑)。部屋に鏡を置いたり、洗面所にドライヤー置いたり。5年前に受け入れた時もとても楽しかったので、ぜひ今回もと思い、受け入れを希望しました!」

詩乃さん「京都の清水寺に行ったのですが、とても感動してくれました。クローイの健康を願うお守りをお土産にプレゼントしたり、一緒にごはんを食べたりしました。家でテレビゲームで遊んだら、スーパーマリオが上手でビックリ! 英語は片言で大丈夫でした。これからは海外にたくさん行きたいです」



リティアナ・バイ (18) さんのホストファミリー (下タ中)

大野万紀子さん、伽菜子さん (高2)、西井 夢さん (高2)

万紀子さん「瓜割の滝や熊川宿にとっても興味を持っています。お寿司や味噌汁など日本食が好きみたいです! 気を遣っては5泊も持ちませんので、気楽に過ごしています (笑)。途中でホームシックになっていたけれど、国際電話をしたら元気になりました。とてもしっかりした子です」

伽菜子さん「2年前にオーストラリアでお世話になったので、お返しがしたいと思っていました。リティアナとはすぐ友達になれました。ボーイフレンドの事など何でも話します。英語が分からなくても、怖がらず、とにかく笑顔で何か話すことが大切だと思います。今は自然に英語が出てくるようになりました!」

See You Again!!

いよいよお別れの日。短い期間だったけれど、思い出がぎゅっと詰まった6日間。抱き合って、涙を流して、別れを惜しむ子どもたち。

記念式典で若狭町国際交流協会 岩本守博会長のお話にあったとおり、「この国際交流の歴史はあたたかい心の交流の25年間」だったことが感じられました。今回の交流も、お互いにとってとても良い刺激になり、この6日間ではか感じるこのできなかったあたたかな気持ちは、参加した全員の一生の宝物となったことでしょう。(取材: わかさ Reco.)





10周年記念に安全呼びかけ

公益社団法人若狭町シルバー人材センターは、今年設立10周年を迎え、記念事業の一環として10月8日に交通安全茶屋を開催しました。

当日は、町内18班の代表者や役員が参加し、敦賀方面に向かうドライバーに対し、お茶や交通安全啓蒙チラシを配り、安全運転を呼びかけました。

9月には県下のシルバー会員が通勤時に交通死亡事故に遭っており、交通安全茶屋の開催を契機に交通安全意識を高め事故ゼロを目指した取り組みをしていくことになっています。

“本物”の歌声体感

10月9日、みそみ小学校で、ふるさと教育事業として声楽家の野原広子さん（美浜町）を招いてコンサートが行われました。これは、将来の夢教育の一環で児童に「本物」に触れてほしいと開催されたものです。

野原さんは、東京芸大卒業後イタリアのフィレンツェを拠点として20年にわたってヨーロッパで活躍され、5年前に美浜町に戻って来られました。

コンサートは文部省唱歌から始まり、オペラ「魔笛」や「蝶々夫人」から代表的な曲が披露されました。また、「アナと雪の女王」や「みそみ小学校校歌」では、児童の声も一緒に、会場となった体育館に響き渡りました。

コンサート終了後は児童の「歌っていて良かったと思うことは?」、「なぜオペラを勉強しようと思ったか?」などの質問に対し、野原さんは「文化の交流ができ、いろんな国の友達ができて良かった。オペラを歌ってみて、その国の文化を知りたいと思い、またオペラを知りたいと思った」と答えていました。



宝くじ助成で整備

宝くじの売上金を財源とした『コミュニティ助成事業』で、大鳥羽区が旗ポールを設置しました。

このように宝くじの売上金は、公共施設の整備や備品などの購入に活かされています。



◀ 大鳥羽区が設置したポール